

中央教育審議会「答申」と「審議経過報告」の目次対照表

答 申	審議経過報告
<p>はじめに</p> <p>第 部 総論</p> <p>(1) <u>義務教育の目的・理念</u></p> <p>(2) <u>新しい義務教育の姿</u></p> <p>(3) <u>義務教育の構造改革</u></p> <p>(4) <u>国、都道府県、市区町村の役割の明確化と協力関係の強化</u></p> <p>(5) <u>義務教育の基盤強化の重要性</u></p> <p>(6) <u>義務教育の費用負担の在り方</u></p> <p>第 部 各論</p> <p>序章 義務教育の質の保証・向上のための国家戦略</p> <p>第 1 章 教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証する</p> <p>- 義務教育の使命の明確化及び教育内容の改善 -</p> <p>(1) 義務教育の使命の明確化</p> <p>ア 義務教育の目標の明確化</p> <p>イ 学校の役割の重要性の再認識</p> <p>(2) 教育内容の改善</p> <p>ア 基本的な理念・目標</p> <p>イ 学習指導要領の見直し</p> <p>ウ 学習到達度・理解度の把握のための全国的な学力調査の実施</p> <p>エ 関連する課題</p> <p>(3) 義務教育に関する制度の見直し</p> <p>第 2 章 教師に対する揺るぎない信頼を確立する</p> <p>- 教師の質の向上 -</p> <p>(1) あるべき教師像の明示</p> <p>(2) 信頼される教師の養成・確保</p> <p>ア 基本的な考え方</p> <p>イ 教員養成・免許制度の改革</p> <p>ウ 採用、現職研修の改善・充実</p> <p>エ 教員評価の改善・充実</p> <p>オ 多様な人材の学校教育への登用</p>	<p>(その 1)</p> <p>はじめに</p> <p>1 新しい時代の義務教育を創造する</p> <p>- 基本的な視点 -</p> <p>2 国際的に質の高い教育の実現を目指す</p> <p>- 義務教育の使命の明確化及び教育内容の改善 -</p> <p>(1) 義務教育の使命の明確化</p> <p>ア 義務教育の目標の明確化</p> <p>イ 学校の役割の重要性の再認識</p> <p>ウ <u>教育投資の拡充</u></p> <p>(2) 教育内容の改善</p> <p>ア 基本的な理念・目標</p> <p>イ 学習指導要領の見直し</p> <p>ウ 学習到達度・理解度の把握のための全国的な学力調査の実施</p> <p>エ 関連する課題</p> <p>オ <u>教職員配置の改善</u></p> <p>(3) 義務教育に関する制度の見直し</p> <p>3 教師に対する揺るぎない信頼を確立する</p> <p>- 教師の質の向上 -</p> <p>(1) あるべき教師像の明示</p> <p>(2) 信頼される教師の養成・確保</p> <p>ア 基本的な考え方</p> <p>イ 教員養成・免許制度の改革</p> <p>ウ 採用、現職研修の改善・充実</p> <p>エ 教員評価の改善・充実</p> <p>オ 多様な人材の学校教育への登用</p>

答 申	審議経過報告
<p>第3章 地方・学校の主体性と創意工夫で教育の質を高める - 学校・教育委員会の改革 -</p> <p>(1) 学校の組織運営の見直し ア 学校の自主性・自律性の確立 イ 学校・地方自治体の取組の評価 ウ 保護者・地域住民の参画の推進</p> <p>(2) 教育委員会制度の見直し ア 教育委員会の設置の在り方 イ 教育委員会の組織の弾力化 ウ 首長と教育委員会の権限分担の弾力化 エ <u>教育委員会と教育長の関係</u></p> <p>(3) 国と地方、都道府県と市区町村の関係・役割 ア <u>基本的な考え方</u> イ <u>地方の主体性を生かした教育行政の推進</u> ウ <u>市区町村への教職員人事権の移譲</u> エ <u>教職員配置の改善と市区町村、学校への学級編制に係る権限の移譲</u></p> <p>第4章 確固とした教育条件を整備する - 教育の質の向上、財源確保の確実性・予見可能性、地方の自由度の拡大 -</p> <p>(1) <u>教育条件整備に関する共通理解</u></p> <p>(2) 義務教育費国庫負担制度の在り方 ア 義務教育費国庫負担制度の概要とこれまでの経緯 イ 地方案を活かす方策と義務教育の在り方 ウ 義務教育費国庫負担制度の検討に関する3つの観点からの議論の概要 エ <u>地方案を活かす方策の検討</u></p> <p>(3) 公立学校施設整備費負担金・補助金の在り方 ア 公立学校施設整備費負担金・補助金 イ 学校施設の耐震化</p> <p>(4) 教科書無償給与制度の在り方</p>	<p>4 現場の主体性と創意工夫で教育の質を高める - 学校・教育委員会の改革 -</p> <p>(1) 学校の組織運営の見直し ア 学校の自主性・自律性の確立 イ 学校・地方自治体の取組の評価 ウ 保護者・地域住民の参画の推進</p> <p>(2) 教育委員会制度の見直し ア 教育委員会の設置の在り方 イ 教育委員会の組織の弾力化 ウ 首長と教育委員会の権限分担の弾力化 エ <u>教育委員会の役割の明確化</u></p> <p>(3) 国と地方、都道府県と市区町村の関係・役割 ア <u>国、都道府県、市区町村それぞれの役割と関係</u> イ 市区町村への教職員人事権の移譲</p> <p>(その2) 確固とした教育条件を整備する (教育の質の向上、財源確保の確実性・予見可能性、地方の自由度の拡大)</p> <p>はじめに</p> <p>(1) <u>これまでの議論を通じての共通理解</u></p> <p>(2) 義務教育費国庫負担制度の在り方 ア 義務教育費国庫負担制度の概要とこれまでの経緯 イ 地方案を活かす方策と義務教育の在り方 ウ 義務教育費国庫負担制度の検討に関する3つの観点 【観点1：教育の質の向上】 【観点2：財源確保の確実性・予見可能性】 【観点3：地方の自由度の拡大】 【その他】 エ 義務教育費の財源保障の在り方に関する意見</p> <p>(3) 公立学校施設整備費負担金・補助金の在り方 ア 公立学校施設整備費負担金・補助金 イ 学校施設の耐震化</p> <p>(4) 教科書無償給与制度の在り方 おわりに</p>